

■今年の国語は！？

例年通り、的確な記述力や60分で大問三問を解き切る処理スピードが求められた。

■出題形式

今年度（'20年度）も例年通り、大問が3問、小問29問と形式上大きな変化はない。記述については、すべての問題に字数が指定されており、例年出題されていた解答欄の枠だけが与えられた形のものではなくなくなった。ここ数年は選択肢の内容を「生徒の言葉（口語）」で表現した形式のものが出題されていて、こうした形式にも慣れておく必要があるだろう。全体としては、小問数は微増しているが、実際に解答する箇所は減少傾向にある。とはいえ、60分で大問3問を解き切る処理スピード能力は高いものが求められる。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	60分	60分	60分
大問数	3問	3問	3問
小問数	26問	27問	29問
配点	120点	120点	120点
最高点	107点	103点	106点
受験者平均点	79点	67点	72点
合格者平均点	82点	71点	76点

※4教科型 ①4科目の合計点 ②国・算・理の合計×1.25
①、②のうち高得点の方で判定
3教科型 4教科型の②と同様

■出題内容

- ㊦ 論説文：『日本人にとって自然とはなにか』宇根豊 約3500字 筑摩書房
- ㊦ 物語文：『家族シアター』辻村深月 約3600字 講談社
- ㊦ 随筆文：『日日は好日』森下典子 約2700字 新潮社

例年、大問間で多少の分量の増減はあるものの、全体としての字数に大きな変化はない。

㊦ 農業を通して、西洋の自然観と日本人のそれを比較した論説文。内容が哲学的な部分もあり、語句も難解でなじみのないものが含まれるため、とまどった受験生も多かったのではないかと推察される。一方、例示をたよりに理解するという基本的な読み方ができていれば、文意を取ることは十分可能である。内容把握に加え、出題者の指定する抜き出しの条件に合う部分、語句をすばやく的確に見つけ出す技術が求められる。

㊦ タイムカプセルを材料に、父親の息子に対する思いや新たな発見を描いた文章。「あらすじ」を含め、出来事の背景や登場人物の人間関係といった場面把握の基本ができていれば、全体的には平易な内容である。50字以内指定の記述が出題されているが、文脈から答えるべきことは明確で、字数が多い分、答えやすかったのではないかと推察される。心情把握も決して複雑なものではなく、本文に十分明確な根拠を求められるものになっている。

㊦ 「茶道」を通して筆者の人生観をつづった随筆文である。小6テキストに本文と重複する部分の掲載があり、実施したことを記憶していた生徒は取り組み易かったのではないかと推察される。とはいえ、「ガラスびんの中から外をながめている」「お茶を続けているうち、そんな瞬間が、定期預金の満期のように時々やってきた」など、随筆ならではの筆者特有の表現が所々に見られるので、前後の内容や他の例示から筆者の思いや主張を押さえていく力が必要となる。

■合格に向けての対策

本校の合格に向けて身につけるべき力は、主だって次の3つです。

1つ目は「処理スピード能力」。既述のように例年総計10000字前後の分量の長文読解問題が全部で3問出題されます。それらをスピーディーに読み、設問を的確に処理できる力が必要になります。日進を含め、様々な模擬試験でスピードを意識することは当然ですが、ショートテストでも時間を意識し、「完答＝すべて解き切る」ことが求められます。平常授業や家庭学習での演習時にもタイマーを使うなど、常に時間を意識した練習を実践してください。また、文章も漫然と読むのではなく、同意表現や対比表現、指示語の指すものに印をつけるなど、作業をしながら読む技術が求められます。

2つ目は「難解な文章にひるまない力」。本校の場合、設問自体は決して難解ではありませんが、本文に比較的難しい内容のものが出題されます。読み始めから何を言っているのかよく解らない、難しい耳慣れない語句が並んでいるというだけで、パニックになったり、文字面だけを追うような読み方になったりしないよう、日ごろから難解な文章に触れる訓練をしておく必要があります。知らない語句であっても、使われている漢字や前後の表現から語句の意味を類推する訓練も必要です。復習時にはその語句の意味を調べたり、質問したりする姿勢も持つておきましょう。常に言葉に対する興味を持つ姿勢を失わないことが大切です。

3つ目は「出題者の要求に的確に答える力」の養成です。本校の設問は決して難解ではありませんが「何を聞いているのか」「何を答えるべきか」をしっかり把握したうえで解き進めていかないと、誤った選択肢を選んだり、間違った部分を抜き出してしまったりする可能性が高くなります。設問自体がシンプルなため、見落としがちな条件をしっかりチェックして答える習慣をつけてください。

■今年の算数は！？

作業力が問われる。四天王寺の王道の出題。

■出題形式

大問7題、小問19題と、少し多かった昨年度（'19年度）とは違い、'18年度以前と同じ程度に戻った。四天王寺の問題構成は、基本的には、はじめは易しく徐々にレベルを上げながら最後は難問になる傾向にある。しかし、計算問題のあとの小問や、中盤の大問にも時折重たい問題がちりばめられているので、それらをうまく避けながら時間配分に気をつけて取り組んでほしい。また、規則性、場合の数、論理と言った処理能力を求められる出題が多い。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	60分	60分	60分
大問数	6問	8問	7問
小問数	19問	22問	19問
配点	120点	120点	120点
最高点	114点	106点	120点
受験者平均点	85点	55点	74点
合格者平均点	91点	60点	81点

※4教科型 ①4科目の合計点 ②国・算・理の合計×1.25
①、②のうち高得点の方で判定
3教科型 4教科型の②と同様

受験者平均点74点で、'14年度～昨年度までの58点、67点、64点、45点、85点、55点と比べると、今年度（'20年度）は平易な問題あったと言えよう。

■出題内容

- 1** 四則計算
- 2** 平面図形（相似・面積比）
- 3** 仕事算（消去算）
- 4** 規則性（分数列）
- 5** 場合の数
- 6** 旅人算（ダイヤグラム）
- 7** 立体図形（切断）

1の計算は例年とほぼ同じレベル。素早く、確実に正解したい。

2、**3**は典型題。ノンストップで駆け抜けたい。

4の分数列は、受験生であれば類題を必ず解いている問題ではあるが、**2**は戸惑った人もいるだろう。**1**、**3**もミスをしやすいので、注意が必要。最後は油断せずにきちんと書き出して処理すること。

5は四天王寺お得意の場合の数。**1**はルール確認なので、題意を把握し確実に正解すること。**2**、**3**はきちんと場合分けをして考えたい。

6も四天王寺お得意の方眼用紙を与えて、ダイヤグラムをかかせる問題。**1**は平易な旅人算なので、確実に正解したい。**2**のウはミスをしやすいので注意が必要。

7は立体の切断だが、難関校受験者であれば、切断面で悩むことは無いだろう。**3**は表面積の問題だが、斜めの面を出す時点で、2:1:1の直角三角すい（三直角四面体）の利用はすぐにわかるはず。四天王寺は例年、最後の大問の最後の小問（つまり一番最後の問題）は厳しい問題が出題されるが、今年度は十分解ける問題であった。

■合格に向けての対策

四天王寺の問題を解く上で最大のポイントは『処理能力』です。しっかり考えることは当然ですが、方針が立てば『速く』『正確に』手を動かせるようにしておく必要があります。最近10年間で「規則性」は毎年、「場合の数」7年出題されていることから、重要性は歴然です。

平面図形では、他校と同様に「相似・面積比」の問題はよく出題されていますが、四天王寺の特色として、「等積変形（等積移動）」を利用する「円、おうぎ形」の出題が多く、難問も結構見られます（'10年度など）。小問として出題されることがほとんどなので、時間を使い過ぎないように注意し、わからない場合は後にまわしにしましょう。立体図形は、以前（10年以上前）と違い、「切断」「回転体」「点光源」「くりぬき」といった問題が出題されています。ただ、男子最難関校と違い、基本的な解法を理解しておけば解ける問題ばかりです。英数Iコース志望者も投げ出さずに十分練習を積んでおいてください。速さは、「旅人算」「流水算」の出題が多いですが、きちんと整理すれば解ける問題がほとんどです。状況図で十分ですが、今年度は昨年度、'17年度に続き、方眼用紙をあたえ、利用させる問題が出題されています。医志コース志望者であればダイヤグラムをかく練習もおきましょう。また、今年度は出題されていませんが、他校では出題頻度の低い「論理」が頻繁に出題されるので、過去問でちゃんと練習しておいてください。

受験者平均点がとれれば英数IIの合格ラインにはほぼ達するので、受験生はまずこのラインを目標にしてください。医志コースを目指すなら+20%（2020年度であれば90点）が目標です。

■今年の理科は！？

今年度（'20年度）は易化！これは来年度難化の予兆（ただし、高難度の問題は出題されない）

■出題形式

例年通り、大問数4問、化学・地学・物理・生物の各分野からバランスよく出題されている。解答欄数は、選択20問、語句4問、計算3問（計算を元にした選択問題を含めば4問）、作図3問、グラフの読み取り1問の計31問という構成であった。計算問題の数は昨年度（'19年度）の12問（計算を元にした選択問題を含めば15問）よりも大幅に減り、'18年度と同数であった。合格者平均点が50点を越えたのは'16年度以来である（'16年度52点、'17年度40点）。合格者平均点は、医志・英数Ⅱ・英数Ⅰコースをすべて含んだものであるため、医志コースを目指すのであれば、61点はほしいところである。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	40分	40分	40分
大問数	4問	3問	4問
小問数	37問	34問	31問
配点	80点	80点	80点
最高点	75点	79点	77点
受験者平均点	43点	45点	54点
合格者平均点	46点	49点	56点

※4教科型 ①4科目の合計点 ②国・算・理の合計×1.25
①、②のうち高得点の方で判定
3教科型 4教科型の②と同様

■出題内容

- ① I. (化学) 凝固点降下 II. (化学) 気体発生
- ② I. (地学) 太陽と、太陽による棒の影の動き II. (地学) ホットスポット（火山）とプレートテクトニクス
- ③ I. (物理) 電流計算（豆電球回路） II. 光の分散と虹
- ④ (生物総合) 生物のからだのつくり、擬態

① I. 凝固点降下に関する問題であるが、難関校志望者としては目新しさを感じることはない問題であろう。初見であっても正解したいレベルの問題である。II. (7)以外の問題は、間違っただけでいけないレベルの平易な問題。(7)も、与えられた条件の数値のまま解けてほしい問題ではあるが、アルミニウムまたは塩酸の量をそろえれば容易に正解することができたであろう。

② I. 太陽と影、月に関する基本問題。全問正解すべき問題である。II. ホットスポットでの火山島の出現。プレートが移動することで火山島が移動し、火山島が列をなす問題は、同じ大阪府内の学校である高槻中学でも出題されたことがある問題（本校の問題の方が平易であるが）。入試の対策として、様々な学校の過去問に取り組んでいた受験生にとっては、得点しやすい問題であったのではないかと。

③ I. 豆電球回路の電流計算に関する問題であるが、あまりに易しすぎる。簡単すぎて逆に面食らう受験生がいたのではないかと心配になるレベル。II. 今年度の本校の入試において、最も歯ごたえのある問題であったかもしれない。日光が空気中の水滴（雨粒）で、屈折→反射→屈折することで虹（主虹）が発生する原理の問題。図示されたものが屈折→反射→反射→屈折の副虹は一切扱っていないため、通常の虹が外から順（高度の高い順）に「赤→橙→黄→緑→青→藍→紫」の順に並ぶことを覚えていた受験生にとっては(6)は一瞬で片付いたであろう問題ではある。(5)は問題の条件をきちんと読みとれば、標準的な算数の問題である。

④(4)までは、単純な知識問題であるが、(5)のバイオミメティクスに関する問題は、あらかじめ知っていないと正解するのは難しい問題か。日常生活の中で気づかぬうちに刺されていることがある昆虫、と考えれば答えが出なくもないが。(6)(ii)も、ベニモンアゲハとそれに擬態するシロオビアゲハのメスを説明した長めの文章があるが、書かれていることを正しく理解できれば正解することは容易である。

■合格に向けての対策

過去3年連続で合格者平均点が40点台であったことから、今年度は全体を易化し、さらに計算問題を減らしたと考えられますが、この傾向が来年度（'21年度）以降も続くとは考えられず、来年度入試は難化が予想されます。ただし、最難関校のような高難度の問題を出題することは無く、基本事項の理解と問題文を読み解く力があれば、合格点は十分に超えられるレベルでの出題に落ち着くと考えられます。

過去の入試において、難度の高い問題を含む年であっても、大半は基本的な問題が出題される学校です。出題範囲に偏りがいないため、おさなりの学習では合格点を取ることは難しいという事を意識し、全体的なレベルでいえば、『スーパーノート+テキスト』や『宿題テキスト』、日進チャレンジコースの内容を一つひとつきちんと理解して進んでいく学習ができていれば（理科については）十分対応できます。医志コースだけは別格と考えてもよいほど合格ラインが高くなりますが（今年度入試では、英数Ⅱで合格最低点が266点/400点に対して、医志コースは299点/400点）、先述の通り高難度の問題が出題される可能性は低いので、日進のウルトラコースを受講する必要はありません。加えて、過去問を踏襲した形式で問題を出題する学校なので、過去問を少なくとも10年分解いて、四天王寺の問題の形式や流れに慣れておきましょう。試験時間40分に対して小問数だけを見れば少なめと感ずますが、長いリード文を読まなければならない問題が多いので、試験時間が十分とはいえません。過去問を解く際には常にスピードを意識して、素早く正確に解答をつくることを心掛けてください。

■今年の社会は！？

大問が3つ!!長文記述問題復活!!ついにグラフの読み取りが…。

■出題形式

大問数は昨年度（'19年度）より2問減り、3問であった。ここ数年では見られない形式である。①地理、②歴史、③融合（主に公民）という出題内容で、小問数は昨年度とあまり変わらない。枝間を合わせると46問である。難易度の高い文章選択問題は今年度（'20年度）も出題されていない。昨年度出題されなかった長文記述問題が復活している。20字が1問、60字が1問であった。漢字指定は2問だけである。時事問題は主に③である。なお数字で答える記号選択問題が3年連続出されなかった。

	2018年度	2019年度	2020年度
制限時間	40分	40分	40分
大問数	6問	5問	3問
小問数	32問	30問	34問
配点	80点	80点	80点
合格者最高点	78点	77点	76点
受験者平均点	58点	56点	55点
合格者平均点	60点	58点	58点

※4教科型 ①4科目の合計点 ②国・算・理の合計×1.25

①、②のうち高得点の方で判定

3教科型 4教科型の②と同様

■出題内容

- ① 地理～九州地方
- ② 歴史～総合問題（江戸時代から明治時代）
- ③ 融合（地理・公民）～2019年におこった出来事をテーマにした総合問題

今年度は昨年度に引き続き比較的平易なレベルであった。難問も少なく、長文記述問題は復活したが、知識をからめたグラフの読み取り問題の登場により、多少戸惑いはあったと思われる。これにより、昨年度よりは問題を解くスピードが求められたように思われる。

地理分野は、日本地理の地名・地誌に終始している。四天王寺はこの体裁の出題がよく見られる。気候の問題は出されていない。産業は、①問7で農業が触れられただけであった。例年出されている世界地理はあまり見られなかった。強いて言えば③問11・問13がそれにあたるのか。来年度（'21年度）は要注意である。題材は九州地方で、'18年度は東北地方、昨年度は中部地方ときているので、シリーズ化しつつあるのかもしれない。①問5は高校入試でよく出されるものだが、地図を常に見ていれば問題ない。また4年生で習得する知識が、難関女子校ではよく出題されるので、4年の時のテキストは復習しておくべきである。日本及び世界の地名とその位置・地誌はしっかり習得しておきたい。

歴史分野は、今年度も聖徳太子関連が出題されなかった。昨年度は扱う時代が鎌倉以降というのがとても珍しく思えたが、今年度は近世以降のみであった。また大問1問のみというのも昨年度に引き続きである。これらの流れが来年度以降に続くのであろうか（続かないと思われるが…）。復活した文章記述問題は歴史分野で出題された。それもおそらく新傾向といっているグラフの読み取りと関連させてである。グラフの読み取りは入試のトレンドでもあるので、いつかはと思っていたが、知識を問う問題が中心の出題傾向が大きく変わる可能性がある。②I問6(2)の津田梅子は新紙幣関係の時事問題であり、また女性であることで簡潔な文章記述問題と絡めたのではないであろうか。正誤組み合わせ問題は今年度も3問出されており、3文の正誤組み合わせ問題も②I問2は出されている。②II問2(1)は事務処理能力が必要であり、あせりは禁物である。また出来事を古い順に並びかえる問題は1問出題されている。文章選択問題もしっかり出されている。かつて多かった会話文形式の問題や世界史の出題は、今回もなかった。歴史の基本的な事項が問われる問題や人物名などを答える問題は、取りこぼしのないようにしておきたい。

政治・時事分野は、大問で1問だけであった。問題形式は例年みられる記号選択問題と用語解答の両方である。三権や国際政治、環境問題は、四天王寺頻出である。日本国憲法は出されなかった分、来年度は要注意である。'18年度出された公民の経済分野は、今年度は消費税率引き上げの関係で財政が出題されているが、近年他の中学校で見られる金融、市場経済などが出る可能性は高いと思われる。③問13の「グレッタ＝トゥーンベリさん」は複数の中学校が出題している。テレビや新聞などで、常日頃から日本と世界の両方のニュースに触れておくべきである。

■合格に向けての対策

対策としては、「日本のすがた」などのデータにはよく目を通しておくことが必須条件です。また女性関連や福祉関係の問題も過去に多く出題されているので注意しておきましょう。漢字解答への準備も怠らないようにしてください。時事関連問題はまず間違いなく出題されるので、テレビ・新聞の主要ニュースは十分熟知しておきましょう。世界地理は、今年度は出題が無かったと言っても良いレベルでしたが、例年普通に出版されているので、最低でも授業で学んだことや『自由自在』に載っていることは習得すべきです。文章選択問題対策、文章正誤問題対策はともに他中学の過去問をいろいろあたってみて、地理・歴史・公民とくまなくしっかり学習しておきましょう。

最後に4科での四天王寺中合格を祈念しています。